

特別読み切り

食育 Essay 56

食から元気なからだと豊かな心を

子どもにとって必要な存在「間の人」
会話が聞こえ、やりとりをする思い出が
心をつくり、その空気が人を育てていく



幼頃はやはり『おでかけ』が楽しみで、丸光デパートの三階にあったジューススタンドでいちごジュースを飲むことが嬉しくて、幼いなりに張りきって出かけたもの。

そしてもう一か所、近所の朝市に出かけること。「じゅんこ、ともこ、明日の朝は朝市に行くよ。」という父の声に、いつもより少し早く起きて身支度を整えての朝のおでかけは、私たち姉妹にとっても何か特別のここのように思えたものです。

特別なことというのは、食べる時は椅子に座ってということが私たち姉妹にとっては当たり前でしたが、朝市では焼いている麦餅をその場で食べることができるので、わくわくしながら食べたものです。季節の野菜や果物、そしてお盆やお彼岸の時にはお花を買ったことを、その風景と共に思い出出すことができます。

その朝市は子どもが歩くにもちょうどよい距離、そして道に腰をかけて売っているおじさんやおばさんとお話ししながらお買い物をしますので面白く、子どもなりにも朝の清潔な空気を感じながらその時間を味わったもの。

子どもにとっては家族や学校の先生以外に接する大人の存在は大事だなと感じます。先日もある会で、郷土芸能であるえんぶり組の方のお話をお聞きした際、子どもにとって必要な存在は「間の人」であると話ししておられました。いつも身近な家族以外に子どもに関わる人の存在、芸能の伝承を通じて関わる大人、小学生にとっては中学生や高校生などの少し年上のお兄さん、お姉さんの存在が、その空気が人を育てていくと。

無人の中でお買い物ができる時代であり、機械やロボットがテーブルまで注文したお料理を届けてくれる今の時代、やはり子どもにとっては、家族以外の大人たちの、少し年上の方の会話が聞こえ、やりとりをする思い出が心をつくっていくんだと、ふと懐かしく思い出した朝市のこと。本当によき思い出であり、ぜいたくな時間であったと。

ウエルのお店はその「間」を大事にして今があります。食べる私たちとお料理を作るお店の皆さんの間にある時間や会話、そして愛情が明日の元気をつくってくれます。

今年も美味しい秋がきました！ ジュンコ先生も張りきって菊花を買い求め、きれいな黄色に茹でるコツをつかみながら大事な秋味をせっせと冷凍庫にストックしています。お鍋グツグツ、天ぷらカリッと。ウエルの皆さんはどんなお料理かと楽しみな秋です。

- 書き手 - 千葉幼稚園 園長 岡本 潤子

